

# 平成29年度国産榊生産者の会 in伊万里の「感想・レポート集」 が完成

平成29年度国産榊生産者の会in伊万里が佐賀県伊万里市で同年10月19日に開かれたとは既報のとおりである(本誌2017年12月号掲載)。今年度は11月15日に鹿児島県の種子島で開催されることになっている。それに先立ち、29年度の「感想・レポート集」が国産榊生産者の会事務局より11月上旬に会員へ発信された。一部を抜粋して取り上げる。

.....

①国内産シェアの奪回という目的に向かつて強いリーダーシップを發揮していることに感銘しました。

②今回は例年より大人数で、とくに地元佐賀県の行政からの参加が40人と多かったです。遊休農地の再利用や高齢者対策、また永続的な里山づくりの対象として真剣に取り組む姿勢が感じ取れました。

異業種からの参入(ソーラーの下の有効利用、大規模農地や山を買い取って植栽)もありました。今後も資本金や土地持ちの参入があるでしょう。しかし、植えれば採れるものではありませんので、しっかりと足下を見て生産していきたいと思います。

③参加者との対話で、特用林産物のなかでも神仏用枝物に関心が高まってきているようです。

④2回目の参加でしたが、参加者が

前回以上に増え、毎年盛り上がりを感じます。今回も全国各地の生産者が各自のサカキ・ヒサカキを持ち寄り、品評会のごとくテーブルの上の品物を見て熱く語り合うなか、生産のヒントをたくさんもらいました。前日のプチ懇親会や当日の現地視察、終了後の懇親会の盛り上がり、どのセクションでも生産者同士の技術交流や情報交換が活発で、全国の生産者が垣根を越えて一同に集まって交流できる、この会が生産意欲の向上に多大なる貢献をしていることを確信しています。

⑤今回の研修会と圃場見学で勉強になることが多く、自分のこれから農業にも活かせそうなことをいくつも発見することができました。また、新しい出会いや現在世話になっている人との親交もすばらしい経験になりました。この経験から少しでも量を増やし、品質の安定化にも努めたいと思います。

⑥私の場合、祖父母が遺してくれた土地に榊があり、数カ月後に出荷するだけという恵まれた環境です。それに甘んじている自分は榊に対する姿勢の弱さを痛感しました。榊に適している環境のなかでも自分自身もつとやれることがあるのではないかという思いで、も

つとがんばらなければいけないと実感しました。

⑦この会の注目度の高さを感じるとともに、将来への期待も高まりました。あまりの内容の濃さに消化しきれないことが多くありましたが、今後とも研修を重ねながら早く一人前になれるよう努力していきたいと思っています。

⑧中国産の品質が上がっていることに驚きました。国産ブランドに甘んじず、品質を上げる努力は常に必要だと改めて感じました。

この会に参加した人と交流でき、全国の人と一丸となって前に進んでいこうというエネルギーはモチベーションにもつながりました。また、問題が発生してもアドバイスをしてくれる人などがこれだけいることは就農したばかりの私たちにとても非常に心強くありがたいものです。将来、榊をメインに生産していこうという意志も固まりました。

⑨課題はマーケットの開拓にあると感じています。榊の文化や歴史をどう伝えていくか。今後、10年先のマーケットを考えたとき、なるべく早めに手を打っておいたほうがいいように思います。そんな未来を考える分科会もあっていいのかもしれません。